今年も市内の中学2年生男女12名、引率2名が、8月2日から11日間の日程で姉妹都市のオーストラリア・ハーストビル市を訪問して、国際理解と交流を深めました。今月号では、生徒と引率者の感想文をご紹介します。

「オーストラリアに行って」　白石中学校2年　髙橋　佳那

今回、オーストラリアを訪問して、いくつか印象的だったことがあります。それは、自然の美しさと人の温かさです。

オーストラリアの空は、日本と違って広く澄んでいて、とてもきれいでした。また、高速道路の両脇は広い牧場で、牛や羊などが伸び伸びと暮らしていました。それだけでなく、シドニーのような大都市にも、緑あふれる大きな公園がありました。そんな、自然と文明とが共存していることにとても感動しました。

もう一つ、人の温かさというのは、2日間だけ通った学校と街中、それにホームステイをしている時に感じました。私が通った学校は女子校だったのですが、廊下ですれ違うたびに、たどたどしい日本語で「コンニチハ。」とあいさつしてくれました。時には急にハグ（抱擁）され、ちょっとビックリしたこともありましたが、みんな気さくに声を掛けてくれて、とてもうれしかったです。また、大きなショッピングセンターに買い物に行った時、トイレの水道が蛇口をひねっても水が出ず、手が洗えなくて困っていた私に、見知らぬ女性が「プッシュ、プッシュ。」と言ってくれて、やっと手が洗えたというエピソードもありました。私のホストファミリーは中国系の人だったのですが、そのおかげで漢字も通じて、私がどうしても英語の意味が分からなかった時、漢字を書いてくれたりして必死に伝えようとしてくれていることを感じ、とてもうれしくなりました。

しかし、プラス面だけでなくマイナス面もありました。それは、戦争記念館で感じました。第二次世界大戦中の日本兵が、オーストラリア人の捕虜に行った残虐な行為の写真を見た時はとても苦しくなりました。しかし、そんなことがあったにも関わらず、温かく接してくれたオーストラリアの人々が、あらためて大好きになりました。

11日間という短い期間の中で、たくさんのことに感動し、オーストラリアが大好きになりました。できることならば、日本に帰らず、ずっとオーストラリアに住んでいたいと思ったくらいです。絶対に将来、このメンバーでまたオーストラリアを訪れ、ホストファミリーと再会したいなと思いました。

▲訪問前に練習した「南中ソーラン」を披露

「オーストラリアへ行って」　小原中学校2年　小室　章

8月2日から12日まで僕はオーストラリアへ行ってきました。僕たちはオーストラリアへ行くための準備を2カ月前からしてきました。英語での会話はもちろん、オーストラリアでの知識など勉強してきました。そしてオーストラリアへ飛び立ったのです。まず初めにホームステイをしました。ホストファミリーと仲良くできるのだろうか、自分の英語が通じるのかなど不安がいっぱいでした。でもホストファミリーの人たちは初対面なのに優しくて、明るく僕に接してくれました。自分の英語が通じるか不安だったけれど、ホストファミリーの家に日本人が前からホームステイをしていたので、その人に通訳をしてもらったりしてなんとか会話できました。最初はホストファミリーと仲良くできるか心配だったけれど、一緒に遊んだり、学校に行ったりしていくうちにとても仲良くすることができました。ホストファミリーに日本のことを知ってもらおうと日本語を教えたりしました。食事の前に「いただきます。」や食べ終わったら「ごちそうさまでした。」と言ったらまねをしてくれました。さらに僕は日本から温麺（うめん）を持って行ったので温麺を作って食べさせてあげました。オーストラリアの人の口に合うか心配したけど、おいしく食べてもらえたようでした。

オーストラリアで暮らしていると日本と違うところがたくさん出てきます。僕がホームステイ中に見つけた日本と違うところを紹介します。まずホームステイで一番驚いたことは、ドアを開けっ放しにすることです。ドアを閉めていると誰かが入っていると思い込むからだそうです。次に驚いたのは靴を脱がないことです。多くの外国では靴を脱がないと聞きました。靴を脱いでいるのは日本くらいしかないそうです。あまり靴を脱がずに家を歩き回ることはないので慣れるのに一苦労でした。さらに驚いたのは風呂がシャワーだけだったことです。オーストラリアでは、水がとても貴重なので水を大切に使います。日本とずいぶん違うところがありましたが慣れてしまえば大丈夫でした。ホームステイが終わり観光しました。動物園に行ったり砂丘に行って砂滑りをしたり、とても良い思い出ができました。オーストラリアで過ごしているとだんだんと日本のことが分かってきました。オーストラリアの人たちは初対面でもこんなにフレンドリーに話し掛けてくれるのに、日本だったら初対面の人にこんなに明るく接しないだろうなとオーストラリアに来て気付きました。外国へ行けば行くほど日本の良いところとそうではないところが見えてくると、この体験で分かりました。

平成19年度ハーストビル市中学生派遣事業に参加して

市民公募引率者　半澤　明子

今年から引率者1名を公募することになり、「これは私にしかできない仕事だ!」と応募しました。私は2005年～2006年の約2年間、イギリスに語学留学していたので「英語を使った仕事がしたい!」とウズウズしていたところに来た、またとないチャンスでした。英語力はもちろんですが、私の経験が中学生が持つであろう海外渡航への不安や疑問を解決し、素晴らしい思い出づくりをサポートできると思ったからです。

そして8月2日、各中学校から選ばれた12名は、期待、興奮、不安を胸に白石を出発しオーストラリアへと旅立ちました。4回の事前研修があったとはいえ、ほとんどの生徒は初めての海外旅行、中には飛行機に乗るのでさえ初めての生徒もいたということで、成田空港に着くまではみんなソワソワしていました。オーストラリアに着いてからはうそのように緊張も不安もなく、初日から、特にホストファミリーに会ってからは伸び伸びと観光や友達づくりができたようで何よりです。一番印象に残っているのはハーストビル市を去る朝、生徒たちが泣きながら名残惜しんで別れの言葉をホストファミリーと交わしていたことです。これが彼らにとって今回の旅の、最大の思い出になったことを私は確信し、大変うれしく思います。

この交流をただの思い出ではなく将来へつなぐステップアップにし、これからも白石市とハーストビル市の交流に参加して、さらには日本と世界をつなぐ国際人になるきっかけになればと思います。私自身も、姉妹都市設立当初から交流のあるフォードさん宅へお世話になり、実の娘のように接していただき、楽しい時間を過ごすことができました。あらためて、白石市とハーストビル市が長年にわたり、親密な関係を確実に築き上げ（つつ）てきたことが伝わってきました。日豪文化交流協会理事長の戸倉勝禮（かつのり）さんは「このように、毎年きちんと交流するのは珍しいし難しい。これからも親善事業を続けて頑張ってほしい。」とおっしゃっていました。白石市の誇りは歴史や文化だけではなく、今や姉妹都市交流も含まれるといっても過言ではないのでしょう。

私にこのような大役を務める機会を与えてくれた関係者の皆さんに心から感謝申し上げます。

▲オペラハウスの前で撮影

市内の各中学校では、学習指導要領の狙いを受けて「子どもたちの生きる力をはぐくむ」さまざまな教育活動を行い、特色ある学校づくりを進めています。
「教育のひろば」では、家庭・学校・地域がお互いを理解し、同じ目的に向かって協力し合える姿を目指し、教育活動の紹介を行っています。今月は白石中学校です。

白石市立 白石中学校

☎25-3363　FAX25-3386　URL http://www.shiroishi-j.myswan.ne.jp/　Eメール chief@shiroishi-j.myswan.ne.jp

教育目標

21世紀を担う子どもたちの教育を見据え、人間尊重の精神に立って生徒の豊かな人間性の育成を目指し、生涯学習の基礎的な資質の向上に努める。

校訓

○夢をふくらませ、その実現に向かって努力する生徒（不撓（ふとう）不屈）
○思いやりと奉仕の精神で、生活を豊かにする生徒（友愛）
○主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する生徒（自主）

重点努力事項

○学習指導の充実・強化（確かな学力の向上を目指して）
○生徒指導の充実
○白石市民の一員としての自覚の高揚

●特色ある教育活動

●基礎学習・学習強化期間

学力の向上を目指し、5時間授業の日の授業終了後、全学年で25分間、数学や英語の習熟度別学習（本人の希望により）を行っています。プリント学習が中心ですが、補充・発展の学習として、大いに効果を上げています。また、7月と12月に学習強化期間を設け、苦手教科の克服などの個別指導を行っています。

●MAP（みやぎアドベンチャープログラム）

校内研究の研究テーマに基づき、生徒の学習意欲を高めるため、すべての教科でMAP（みやぎアドベンチャープログラム）の考え方を取り入れた授業づくりに取り組んでいます。

●「職業体験学習」・「白石の未来への提言」

総合的な学習の時間（全学年共通主題「自分探しの学習」）の一環として、1・2学年で「職業体験学習」を実施しています。狙いを「働く苦労や喜びを体験して働く意義を考えるとともに、社会人としての礼儀や心構えを学ぶ。将来の進路や生き方を考える機会とする。」と設定し、2年生は本年度から5日間（昨年度は4日間）にわたって市内約40の一般企業や公共施設などで実習を行いました。

初めはどことなく不安な様子だった生徒たちも、日ごとに仕事に慣れ、自分の存在感を発揮しながら進んで体験活動に取り組んでいました。5日間という期間ですが、たくましさを身に付けることができました。

3学年では、生徒一人ひとりが、郷土白石の生活や社会を多面的に見つめ、そこから興味や関心を持つ課題を見つけ出し、資料を活用して調べたり、取材調査を行ったりして「よりよい白石の未来像」の構想を深めていく学習「白石の未来への提言」に取り組んでいます。

▲カップめん作りは僕たちに任せてください！（職業体験学習）

最終的には、個人または課題を同じくする小グループでまとめたものを発表する予定です。この学習を始めるに当たり、地域でまちづくりにご尽力されている白石まちづくり（株）の中川章氏を招き、お話をいただきました。生徒たちは中川さんの話に引き込まれながら、「白石のまちを活気があふれ、魅力ある町、生活がしやすい町にしたい」という熱意を感じ取っていました。

●食育教育

食育教育の一環として、3年生を対象に、市の栄養士さんから、健全な食習慣や栄養に関する基礎的な知識について講話をいただいています。また、1年生は学級活動の時間に、学級担任を中心に関係職員が協力して食育教育に取り組んでいます。

●開かれた学校づくり

●親子ふれあい活動

親と子が共にレクリエーションや奉仕作業を行ってそのきずなを深めるとともに、保護者に生徒や学校の様子を理解してもらい、学校と保護者が手を携えて生徒の健全な育成に向けて協力し合おうと、毎年実施しています。3年生は親子でドッヂビーとバスケットボールのフリースロー大会を行い、保護者も生徒以上に熱中した活動となりました。

▲輪になって競技の説明を受ける参加者

●授業参観・出前授業・外部評価

3年生の進路指導の一環として、仙南の各高校から先生を派遣していただき、出前授業を行っています。また、授業参観での保護者アンケートや、本校での教育全般に関する保護者アンケート（外部評価）を実施し、より地域の実態に応じた教育計画の編成に取り組んでいます。

●教育講演会

PTA社会教育部の主催で毎年、教育講演会を実施しています。昨年度は、3年連続で津軽三味線の全国大会で優勝した仙台一高2年生の浅野祥さんをお迎えし、津軽三味線の演奏会を実施しました。演奏終了後には、将来の進路を考える際の大切なことなどについてもお話をいただきました。市外からの観客も多く、充実したものになりました。

●中学生ボランティア隊　P.S.C（Police. Student. Cooperation）

白石市民としての自覚を持つために、生徒たちが自ら希望したボランティア隊がこのP.S.Cです。昨年秋に白石中・東中・福岡中合同で発足し、白石市の安心安全なまちづくりに少しでも貢献しようと頑張っています。警察署と連携し、大型店舗で万引防止キャンペーンを行ったり、通学区の危険個所をチェックしてマップを作成したり、いじめ撲滅運動を推進して地域の小中学生を啓発するなど、さまざまな場面で活躍しています。この活動は、地域の方々とのかかわりが大半であるため、子どもたちにとっては学ぶべきことが多く、心身ともに著しい成長を遂げています。

▲万引防止を呼び掛ける隊員の皆さん